

## VISTA 1 ユーザーレポート

### 株式会社長崎国際テレビ様

Vista 1-22F



音声継車をVista 1で更新



株式会社長崎国際テレビ  
技術局 技術部  
石浜 浩司

#### 更新までの道のり

弊社では、古い中継車から映像機材を外し、アナログ音声卓を搭載した車を、年間21回のJ2「Vファーレン長崎」ホームゲーム生中継等で使用していましたが、車両が26年を経過し、老朽化が進んでしまったことから、音声継車を更新することになりました。当初は機器載せ替え案も検討しましたが、リーグシーズン途中の載せ替えは難しいことや、いずれ数年後には音声卓の更新も迎えることから、新規音声卓含め、音声継車全体を更新することにしました。

#### VISTA1選定の理由

ワンボックスカーに収納するサイズとして、20フェーダー程度の音声卓で検討を開始しまし



た。少ないスタッフで運用している弊社としては、出来るだけスムーズに使用開始出来るかが決めてであり、制作サブで使用しているVISTA 5 M2と同じ操作感のVISTA 1を選択するのは自然な流れでした。放送断が許されない生放送用音声卓としては、信頼性が重要です。また、弊社録音室にも導入しているOnAir 2500もこれまで特に大きなトラブルがないこともSTUDER製デジタル音声卓を採用した理由の一つとなりました。

#### システム設計&構築にあたり

他局様の実装、導入例を見学させて戴き、弊社での使用実態に近い仕様を考えていきました。ナイトゲームの中継でも30℃近い温度と高湿度では、エアコンが必須と考えましたが、小型車両ではあまりエアコン実装の実例が少なくとっていました。エアコンの吹き出し口とオペレーターとの距離が近くなるため、搭載位置を慎重に決めていきました。今では必須の光ジープやICS用ケーブルの埋め込み等も行いました。音声卓のことは書いておりませんが、言い方を変えると音声卓はさほど気にしていなかったと言うか、「今でも使っている卓に近いから問題ないはず」の前提で進めていて、その分のエネルギーを他の検討に使えたのも大きいと思います。

#### 初運用を迎え

工場立検時と引き渡し後の2日間でスチューダー・ジャパンブロードキャストの技術スタッフに設定作業を手伝っていただき、引き渡し日の3日後には最初のJ2中継を迎えました。さすがにオン・エア前はドキドキしたものの、当たり前ですが何事もなく終わり、1ヶ月半で5試合をこなしました。また野外のイベント中継にも使用しましたが、その翌日にはJ2中継があり、入出力のパッチ接続と設定ファイルの呼び出しだけでOKなので、今更ながらデジタル卓の便利さを実感しました。

このレポートが記載されたSSJが発行される頃には全国的に超有名な演芸番組の収録も終わっているはずですが、まだ導入2ヶ月で、これからのいろいろな番組に出会うことになるでしょうが、この車の機動性とVISTA 1の性能を遺憾なく発揮させたいと思っております。

